

をめぐる国際社会学：子ども・若者の移動経験に注目して」があり、日韓ジョイントパネルでも「人の国際移動と移民政策を考える：日韓の事例・両国への示唆」がテーマとなるなど、人口移動への関心も高かった。
(守泉理恵 記)

台湾における低出産・高齢化と政策的対応に関する資料収集

厚生労働科学研究費による研究事業「東アジア低出生力国における人口高齢化の展望と対策に関する国際比較研究」の一環として、筆者が11月23日～27日にかけて台湾に出張し、専門家との面談と資料収集を行った。面談した専門家は、李美玲教授（亞洲大学）、薛承泰教授・陳玉華教授（国立台湾大学）、楊文山博士・于若蓉博士・董安琪博士ら（中央研究院）である。特に中央研究院では、筆者が“Low Fertility and Confucian Family Pattern in Eastern Asia”と題してプロジェクトのこれまでの成果を報告し、有意義な議論を行うことができた。また薛承泰教授からは、帰国後に貴重な研究成果を送っていただいた。その他、日本においては検索・購入が難しい資料を入手できた。

(鈴木 透 記)

国際開発学会

2014年11月29日（土）、30日（日）に、千葉大学（西千葉キャンパス）にて、国際開発学会第25回全国大会が開催された。国際開発学会は、途上国の開発問題に関する、経済、資源、教育、保健医療、貿易産業、インフラ、開発手法、といった、さまざまな分野の研究者が会員となっており、対象とする地域も、アジア、アフリカ、ラテンアメリカやオセアニア島しょ地域、ロシアを含むヨーロッパなど多様である。筆者は、「人の移動と開発—国際人口移動と国内人口移動の国際比較」というタイトルで報告を行ったが、「人材と教育」のセッションに位置付けられており、教育分野の専門家である座長やコメンテーター、セッション参加者と、普段接することの少ない分野の視点を通じた、興味深い議論が交わされた。そもそも人口学は、人材開発に資するべき学問であるから、今後も、このような場を通じて関連分野との連携を行うことが重要であると感じさせられた。
(林 玲子 記)

国連ジェンダー統計・EDGEプロジェクト中期評価技術会合

国連統計部、UN Women の主催で、2014年12月3日（火）～5日（金）、福岡県北九州市の北九州市立男女共同参画センターにて、「EDGEプロジェクト中期評価技術会合」が行われ、参加した。ジェンダー統計は、国連統計委員会の勧告に基づいて、国連統計部・UN Women が整備を行っているが、ジェンダー統計を、国際的に承認された定義がありデータが揃っているもの（第1群）、国際的に承認された定義があるがデータが十分に揃っていないもの（第2群）および定義がまだ国際的に承認されておらず、データも揃っていないもの（第3群）に分類し、それぞれ異なったアプローチがとられている。EDGEプロジェクトはこの第3群に当たる統計整備を目的とするもので、具体的には女性の起業に関する統計、女性の資産所有に関する統計が今回の会合の対象項目であった。

会議に参加したのは、EDGEプロジェクトのパイロット国である、フィジー、グルジア、ガーナ、モルジブ、メキシコ、モンゴル、フィリピン、南アフリカ、スワジランド、ウガンダと、中国、韓国、